

中国・チャハル学会高野山フィールド・ツアー報告

中国・察哈尔（チャハル）学会の韓方明会長一行の来日に際し、日本平和学会執行部に対して表敬訪問が打診されたことを受け、奥本京子第 23 期国際交流委員長より調整が進められた。当初は東京や京都での学术交流も検討されたが、弘法大師の師と同姓同名である縁から、韓会長が訪問の意向をお持ちであるとの情報を得たため、高野山への合同フィールド・ツアーが企画された。なおこのツアーは本学会第 23 期国際交流委員会が主催し、小笠原正仁・浄土真宗僧侶により高野山金剛峰寺および高野山大学など現地関係者との間で調整していただいた。

参加者は、チャハル学会側が韓会長の他に趙新利研究員、特尼格尔（モンゴル語読みはトゥングル）一带一路研究中心秘書長、王雅丹研究員が帯同した。本学会側は、黒田俊郎第 23 期会長、君島東彦第 22 期会長、奥本京子第 23 期国際交流委員長、内田みどり会員、加治宏基会員であった。なお、佐々木寛第 21 期会長も参加予定であったが、諸般の事情により同行は叶わなかった。

2018 年 4 月 28 日（土）から 1 泊 2 日の行程のなかで、1 日目夕食、2 日目朝食および昼食の都合 3 度にわたり、チャハル学会側との会食を兼ねた意見交換会が設定された。これに加えて 1 日目の夕方に、高野山大学図書館の木下浩良氏にガイドしていただき奥ノ院を合同で訪問し、さらに 2 日目早朝には、本堂での勤行（1000 年以上続く法会）をともに体験するなど多岐にわたる交流の機会を得た。

今回の交流を通じて、第 3 回日中平和学対話の準備状況を共有することができた。日本側より、1) 立命館大学大阪いばらきキャンパスにて 2 月 20～23 日に開催する旨、2) 日本平和学会、立命館大学国際地域研究所、察哈尔学会、南京大学联合国教科文和平学教席の 4 団体による共催とする旨を提案し、韓氏も快諾した。また韓氏は、本人を含め察哈尔学会からの参加を約束するとともに、中国側のとりまとめ役として南京大学の劉成教授（参考ウェブサイト：<http://www.peacestudiesinchina.com/>）を指名し、会議方式や中国側参加者については劉氏と協議を進めてほしいとの意向を示された。これについては、すでに国際交流委員会と劉氏の間での調整が既に始まっており、劉氏からは、両国学术交流における信頼できるカウンターパートとしての謝意と積極的な回答を得ている。

なお、日本平和学会メンバーは別途、2 日目午前由高野山社会人権局の雨貝覚樹氏にガイドしていただき、金剛峰寺檀上伽藍（中門、大塔、御影堂、金堂、明神等）、靈宝館、女人堂を見学した。会食後も、午前に続き雨貝氏のガイドにより、金剛峰寺本山を見学した。そして、通常非公開の本山貴賓室である奥殿、松下幸之助氏が寄贈された真松庵も見学する機会を得た。

伽藍の門や主たる堂の玄関はふたつあり、正面のものは天皇、皇族、高野山の重職のみが使用可能だという。また、高野山は多くの仏教施設同様に女人禁制であったが、規制の網をくぐり入山した女性と関係した僧侶は、筵（むしろ）に巻かれ谷に突き落とされたそ

うだ。確かに、この措置だと一山境内地である高野山のなかで血が流れない。一面方便のように見えるこれら厳格な規律が、この山に生きる人々の所作の随所に蓄積され、結果的に非暴力となっているという。

今回のフィールドツアー企画全体に最初から当日まで関わって下さった小笠原氏によれば、中世の高野山と膝下荘園の領民との関係においても粘り強い話し合いの下に年貢を決め、あるいは、戦国時代、信長や秀吉の侵攻に対しても交渉人を遣わして話し合いをしていることも、暴力を避けるこれらの規律と深く結びついている、という。

もちろん今日では、山内の規律も多くが緩和され、真言宗の修業において残るのみだが、弘法大師が816年に開創して以来1200年もの間、流血の事態を回避し継承されてきた「平和」維持の秘策を垣間見ることができた。

察哈尔学会による日本各界への表敬訪問という来日目的に即して、高野山までの往復は韓氏らとは別々の行程であった。その分、現地では多くの時間を共有し、昨秋の第19回中国共産党大会や3月の全国人民代表大会に関しても意見交換することができた。日中平和友好条約締結40周年の今年、穏やかな両国関係は両学会が共通して追求するところであるが、なにより本分である学術・民間交流において真摯な交流を重ねる重要性を高野山という地で確認できた意義は大きかった。

本学会参加者一同と小笠原氏は、高野山から南海高野線で難波まで移動し解散した。ゴールデンウィーク期間中ということもあり、一気に俗世に引き戻された。旅情が吹き飛ぶ活気のなかで、「この世界でこそ、両国の平和学者がなすべきことがあるんだ」と、いっそう感じた。

国際交流委員会 加治宏基